

方氏議事史

第七卷

題字

第四十五代香川県知事

金子正則



香川県議会議事堂
—昭和61年10月31日完成—



本会議場



第 13 期香川県議会議員（平成 7 年 4 月 30 日～平成 11 年 4 月 29 日）

—平成 11 年 2 月 24 日撮影—



第14期香川県議会議員（平成11年4月30日～平成15年4月29日）

—平成15年2月19日撮影—



三宅暉茂議長

平成7年5月1日就任

平成8年5月1日まで在任

—第67代—



植田郁男議長

平成8年5月1日就任
平成9年5月1日まで在任
—第68代—



組橋啓輔議長

平成 9 年 5 月 1 日就任
平成 10 年 5 月 1 日まで在任
—第 69 代—



岡田好平議長

平成10年5月1日就任

平成11年4月29日まで在任

—第70代—



大喜多 治議長

平成 11 年 4 月 30 日就任

平成 12 年 5 月 1 日まで在任

—第 71 代—



岸上 修議長

平成 12 年 5 月 1 日就任

平成 13 年 5 月 1 日まで在任

—第 72 代—



綾田福雄議長

平成 13 年 5 月 1 日就任
平成 14 年 5 月 1 日まで在任
—第 73 代—



真部善美議長

平成14年5月1日就任

平成15年4月29日まで在任

—第74代—



平井城一知事

昭和 61 年 9 月 5 日就任
平成 10 年 9 月 4 日まで在任
—第 49、50、51 代—



真鍋武紀知事

平成10年9月5日就任

在任中

—第52、53代—

刊行にあたって

香川 県 議 会 議 長

香川県議会史編さん委員長

松 原 哲 也

香川県議会史第七巻の上梓をみました。

本巻は、平成七年四月から平成十五年三月までの香川県議会議員の任期八年間にわたる活動の足跡とあわせて、その背景となる国内外の動きや、議会活動に関係のある事項を主に記述・収録したものです。

この期間は、地方分権や行政改革、さらには経済のグローバル化といった大きな社会変動の中で、香川県がどのように歩みを進めていくのかを決定していく大切な時期となりました。

香川県議会においては、県民の皆様の声を反映しながら、地域振興や福祉の充実、環境保護、教育の向上など、多岐にわたる政策課題が活発に議論されました。これらの議論を通じて、県民の皆様の生活に直結する多くの決定がなされ、香川県の将来を見据えた施策が実行されました。

本巻を通じて、当時の議会活動の詳細を振り返ることで、県民の皆様には香川県議会の役割と意義を再認識していただければ幸いです。香川県議会の活動記録は、今後の香川県づくりに向けた貴重な資料であり、次世代への重要なメッセージとなるでしょう。本書が県民の皆様にとって、香川県の歴史と発展を理解する一助となることを願っております。なお、本巻の刊行に御尽力いただいた歴代の編さん委員長、委員をはじめ関係者各位に深く感謝の意を表します。これからも香川県議会は、県民の皆様の信頼と期待に応えるべく、全力を尽くしてまいります。

令和七年二月

刊行を祝して

元香川県議会議長

元香川県議会議編さん委員長

新 田 耕 造

香川県議会史第七巻の刊行にあたり、県議会議長と県議会議編さん委員会委員長を務め、編さんに携わった者の一人として、本書の刊行を心からお喜び申し上げます。

第七巻に収録された平成七年四月から平成十五年三月までの県議会議員の任期二期八年間は、米国ニューヨークでの同時多発テロ事件の発生など世界各地で紛争やテロが相次ぐ中、我が国においては、五十五年体制崩壊による多党化時代を迎え、また、バブル経済崩壊の傷跡は深く、金融・保険会社の経営破たん等が相次ぐなど、時代の転換期とも言える時期でありました。

また、県政においては、財政状況が厳しさを増す中、平井県政から真鍋県政に交代し、瀬戸大橋の通行料金引き下げ、高松自動車道の全線開通、高松空港の新規路線の開設など三大プロジェクトの整備効果を生かす施策や、サンポート高松並びに香川インテリジェントパークの整備を引き続き推進したところであります。また、豊島産廃問題の公害調停が成立し、直島に中間処理プラントが整備され、問題解決に向けた作業が進められた時期でもありました。

第七巻はこうした時代背景のもと、県議会の活動を中心に県内の政情、県政の変化などの状況を記録したものであり、本書が県議会活動への理解を深め、今後の県勢発展の一助となれば幸いです。

結びに、本書の刊行に携われた多くの皆様のご苦勞に深く敬意を表し、お祝いの言葉といたします。

令和七年二月

例 言

一、香川県議会史第七巻は、平成七年四月一日から平成十五年三月三十一日までの香川県議会二期八年間の活動を中心に叙述した。

二、第六巻までの編さん方針を踏襲し、執筆に際しては第一編「総説」で県内政情や各種選挙、県内主要問題などの概要、第二編「県議会の活動」では定例会や臨時会の質問と答弁、第三編「資料」では議員発議の条例、決議・意見書、議員・県三役の略歴などをまとめた。

三、執筆に当たっては、以下の点に留意した。

▽原則として常用漢字及び現代かなづかいを用いたが、固有名詞や行政用語は、必ずしもこの原則によらなかった。また、差別・不快用語は、その歴史的背景を考慮するとともに、基本的人権を尊重するため一部言い換え、書き換えをした。

▽難解、難読の恐れがある文言は、適宜読みがなをつけるか、かな書きとした。

▽ページ数が制約されているため、本会議での質問並びに答弁は要約したが、発言者の意図が汲み取れるよう留意した。

また、文語体はできるだけ口語体に改め、冗長を避けるため常体表記を基本とした。

▽定例会、臨時会での議会空転や特異な事例は、その要因や背景などをリード部分で記述したほか、当時の新聞記事を参考文献として一部引用した。

四、参考文献は、巻末に主要参考文献として一括掲載した。

香川県議会史（第七卷）

平成七年四月から
平成十五年三月まで